

平取町簡易水道事業

令和8年度水質検査計画

水質検査とは

水質検査は、水質基準に適合していることを確認するため不可欠なものです。
水質検査計画は、水質検査の適正化を確保するために、検査項目等を定めたものです。

1. 基本方針
2. 水道事業の概要
3. 原水及び浄水の水質状況及び水質管理上の問題点
4. 水質検査項目及び検査頻度、採水地点及びその理由
5. 臨時の水質検査
6. 水質検査の方法及び委託内容
7. 試料の採取及び運搬方法
8. 委託した検査の実施状況の確認方法
9. 水質検査計画及び検査結果の公表
10. その他

1. 基本方針

- (1) 水質検査は、水質基準が適用される蛇口に加え、水源も行います。
- (2) 検査項目は安全及び法令を充分考慮して選定いたします。
- (3) 検査頻度は安全及び法令を充分考慮して定めます。
- (4) 水源に汚染等が起こらないよう常時監視を行います。

2. 水道事業の概要

(1) 給水状況

給水状況は、以下のとおりです。

区 分	内 容
事業体の名称	平取町簡易水道事業
給水区域	岩知志から紫雲古津及び貫気別 (31.2 km ²)
給水人口	4,498人 (令和6年度末 3,942人)
1日最大給水量	2,681 m ³ (令和6年度実績 2,576 m ³)
1日平均給水量	(令和6年度実績 1,787 m ³)

(2) 浄水施設

平取町簡易水道事業には浄水場が4カ所あります。

浄水場名	本町浄水場	振内浄水場
通水年度	昭和60年12月	平成9年4月
水源	伏流水	湧水
水利権 (m ³ /日)	1,256 (m ³ /日)	658.9 (m ³ /日)
給水能力 (m ³ /日)	1,115 (m ³ /日)	651 (m ³ /日)
主な給水区域	本町から紫雲古津	振内
主な浄水処理方法	塩素消毒	急速ろ過 塩素消毒
主な浄水処理薬品	(消毒剤) 次亜塩素酸ナトリウム	(凝集剤) ホリ塩化アルミニウム (アルカリ剤) 苛性ソーダ (消毒剤) 次亜塩素酸ナトリウム

浄水場名	貫気別浄水場	岩知志浄水場
通水年度	昭和63年11月	平成9年4月
水源	地下水 (浅井戸)	表流水
水利権 (m ³ /日)		814 (m ³ /日)
給水能力 (m ³ /日)	267 (m ³ /日)	740 (m ³ /日)
主な給水区域	貫気別	岩知志から小平
主な浄水処理方法	遊離炭酸除去処理 塩素消毒	急速ろ過 塩素消毒
主な浄水処理薬品	(消毒剤) 次亜塩素酸ナトリウム	(凝集剤) ホリ塩化アルミニウム (アルカリ剤) 苛性ソーダ (消毒剤) 次亜塩素酸ナトリウム

3. 原水及び浄水の水質状況及び水質管理上の問題点

原水の状況

(1) 伏流水、湧水及び地下水

伏流水、湧水及び地下水については汚染等の恐れがない。

(2) 表流水

取水口上流部に市街地はないが、農地及び動物(鹿, キツネ等)の糞尿及び死骸の流入による汚染が心配される。

(3) 原水水質で留意すべき状況

次表に示す。

浄水場名	本町浄水場	振内浄水場
原水の汚染要因	地震などによる濁水	
水質管理上注意すべき項目	一般細菌・大腸菌 鉄及びその化合物 色度・濁度	
浄水場使用薬品及び資機材からの由来で注意すべき項目	塩素酸、臭素酸（次亜塩素酸ナトリウムに不純物として含有する。）	

浄水場名	岩知志浄水場	貫気別浄水場
原水の汚染要因	降雨、融雪による濁水 獣畜舎 浄化槽排水 油類等による汚染事故	地震などによる濁水
水質管理上注意すべき項目	一般細菌・大腸菌 鉄及びその化合物 色度・濁度	
浄水場使用薬品及び資機材からの由来で注意すべき項目	塩素酸、臭素酸（次亜塩素酸ナトリウムに不純物として含有する。）	

(3) 水道水(浄水)の状況

今までの水質検査結果より、水質基準を十分満たしていて、安全で良質な水道水をお届けしています。

4. 水質検査項目及び検査頻度、採水地点及びその理由

適用範囲 平取町簡易水道事業

適用期間 令和8年4月1日～令和9年3月31日

(1) 浄水の水質検査項目及び検査頻度

1. 水質検査項目

法令に基づく水質検査表(1)において水質基準項目(52項目)の水質検査を行います。なお、法令に基づく水質検査表(2)の1日に1回行う検査についても検査を行います。

2. 検査頻度

検査頻度の決定については、水道法施行規則第15条第1項の3にて行いました。

ア 法令に基づく水質検査表(1)のうち、濃度が1/10以下の場合3年に1回まで緩和することができる項目についても水質が安定し良好であることを確認するため52項目すべての検査を年1回行います。

イ 法令に基づく水質検査表(1)の項目1, 2, 11, 35, 39, 47～52の検査は、毎月(1回はアに含む)行います。

ウ 法令に基づく水質検査表(1)の項目10, 22～32の検査は、年4回(1回はアに含む)行います。

エ 法令に基づく水質基準表(1)の項目6の検査を二風谷浄水場・貫気別浄水場で、項目8, 34の検査を振内浄水場・岩知志浄水場で、項目40の検査を本町浄水場・振内浄水場・貫気別浄水場で、項目41の検査を本町浄水場・振内浄水場・二風谷浄水場・貫気別浄水場で性状確認のため年4回(1回はアに含む)行います。

オ 法令に基づく水質検査表(1)の項目20の検査は、新基準項目のため法令通り年2回(1回はアに含む)行います。

カ 法令に基づく水質検査表(2)の色, 濁り, 消毒の塩素効果(残留塩素)の検査は1日1回行います。

(2) 原水の水質検査項目及び検査頻度

1. 水質検査項目

法令に基づく水質検査表(1)において水質基準項目のうち厚生労働省課長通知に基づき消毒副生成物である22～32, 49を除く40項目の水質検査を行います。

2. 検査頻度

ア 法令に基づく水質検査表(1)の40項目検査を各水源で年1回行います。

イ 法令に基づく水質検査表(1)の1, 2, 11, 35, 39, 47, 48, 50～52の検査を各水源で年4回(1回はアに含む)行います。

ウ クリプトスポリジウム等の検査を本町地区・貫気別地区の水源で年4回、中部振内地区(振内浄水場系統・岩知志浄水場系統)の水源にて年1回行います。

エ クリプト指標菌の検査を本町地区・貫気別地区の水源で毎月1回、中部振内地区(振内浄水場系統・岩知志浄水場系統)の水源にて年1回行います。

(3) 採水地点及びその理由

(本町浄水場)

浄水（給水栓水）	
採水地点	本町28 平取町役場
選定理由	末端地域に位置し公共の施設で、常時採水が容易であり水道水質把握の代表的な場所である。
原水（水道水源）	
採水地点	本町158-12 本町浄水場 着水井
選定理由	取水した原水であり水質把握の代表的な場所である。

(振内浄水場)

浄水（給水栓水）	
採水地点	振内町28-11 平取町役場振内支所
選定理由	末端地域に位置し公共の施設で、常時採水が容易であり水道水質把握の代表的な場所である。
原水（水道水源）	
採水地点	振内町 振内浄水場 着水井
選定理由	取水した原水であり水質把握の代表的な場所である。

(岩知志浄水場)

浄水（給水栓水）	
採水地点	字岩知志 岩知志ふれあい館
選定理由	末端地域に位置し公共の施設で、常時採水が容易であり水道水質把握の代表的な場所である。
原水（水道水源）	
採水地点	字岩知志 岩知志浄水場 着水井
選定理由	取水した原水であり水質把握の代表的な場所である。

(貫気別浄水場)

浄水（給水栓水）	
採水地点	字貫気別129-6 平取町役場貫気別支所
選定理由	末端地域に位置し公共の施設で、常時採水が容易であり水道水質把握の代表的な場所である。
原水（水道水源）	
採水地点	字貫気別128-8 貫気別浄水場 着水井
選定理由	取水した原水であり水質把握の代表的な場所である。

法令に基づく水質検査表
水質検査表(1) 水質基準

項目	基準値	原則頻度	法的検査回数減	項目の概要	
1 一般細菌	100個/ml	月1回	月1回	病原微生物	健康に関する項目
2 大腸菌	不検出				
3 カドミウム及びその化合物	0.003	3ヶ月1回	一定要件を満たす場合は検査回数を減じることができる。*1	金属類	
4 水銀及びその化合物	0.0005				
5 セレン及びその化合物	0.01				
6 鉛及びその化合物	0.01				
7 ヒ素及びその化合物	0.01				
8 六価クロム化合物	0.02				
9 亜硝酸態窒素	0.04				
10 シアン化物イオン及び塩化シアン	0.01	3ヶ月1回	3ヶ月1回	無機物質・消毒副生成物	
11 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10	3ヶ月1回	一定要件を満たす場合は検査回数を減じることができる。*1	無機物質	
12 フッ素及びその化合物	0.8				
13 ホウ素及びその化合物	1.0				
14 四塩化炭素	0.002				
15 1,4-ジオキサン	0.05				
16 シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04				
17 ジクロロメタン	0.02				
18 テトラクロロエチレン	0.01				
19 トリクロロエチレン	0.01				
20 ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタノ酸(PFOA)	0.00005				
21 ベンゼン	0.01				
22 塩素酸	0.6				
23 クロロ酢酸	0.02				
24 クロロホルム	0.06				
25 ジクロロ酢酸	0.03				
26 ジブromクロロメタン	0.1				
27 臭素酸	0.01				
28 総トリハロメタン	0.1				
29 トリクロロ酢酸	0.03				
30 ブロモジクロロメタン	0.03				
31 ブロモホルム	0.09				
32 ホルムアルデヒド	0.08				
33 亜鉛及びその化合物	1.0	3ヶ月1回	一定要件を満たす場合は検査回数を減じることができる。*1	金属類	
34 アルミニウム及びその化合物	0.2				
35 鉄及びその化合物	0.3				
36 銅及びその化合物	1.0				
37 ナトリウム及びその化合物	200				
38 マンガン及びその化合物	0.05	月1回	月1回	無機物質	
39 塩化物イオン	200	3ヶ月1回	一定要件を満たす場合は検査回数を減じることができる。*1	その他	
40 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300				
41 蒸発残留物	500	3ヶ月1回	藻の発生時期に月1回	有機物質	
42 陰イオン界面活性剤	0.2				
43 ジェオスミン	0.00001	3ヶ月1回	一定要件を満たす場合は検査回数を減じることができる。*1	有機物質	
44 2-メチルイソボルネオール	0.00001				
45 非イオン界面活性剤	0.02	月1回	月1回	その他	
46 フェノール類	0.005				
47 有機物(TOC)	3				
48 pH値	5.8~8.6				
49 味	異常でない				
50 臭気	異常でない				
51 色度	5度				
52 濁度	2度				

*1 基準値の1/10以下で水源に変動がない場合は3年に1回、1/5以下の場合は年1回に検査回数を減じることができる。

水質検査表(2) 1日1回行う検査

1日1回行う検査項目	評価
1 色	異常なし
2 濁り	異常なし
3 消毒の塩素効果(残留塩素)	0.1mg/l以上

管理目標設定項目検査表（3）

	項 目	目 標 値
1	アンチモン及びその化合物	アンチモンの量に関して、0.02 mg/l以下
2	ウラン及びその化合物	ウランの量に関して、0.002 mg/l以下（暫定）
3	ニッケル及びその化合物	ニッケルの量に関して、0.02 mg/l以下
4	（項目削除）亜硝酸態窒素	
5	1,2-ジクロロエタン	0.004 mg/l以下
6	（項目削除）トランス-1,2-ジクロロエチレン	
7	（項目削除）1,1,2-トリクロロエタン	
8	トルエン	0.4 mg/l以下
9	フタル酸ジ（2-エチルヘキシル）	0.08 mg/l以下
10	亜塩素酸	0.6 mg/l以下
11	（項目削除）塩素酸	
12	二酸化塩素	0.6 mg/l以下
13	ジクロロアセトニトリル	0.01 mg/l以下（暫定）
14	抱水クロラール	0.02 mg/l以下（暫定）
15	農薬類	検出値と目標値の比の和として、1以下
16	残留塩素	1 mg/l以下
17	カルシウム、マグネシウム等（硬度）	10 mg/l以上 100 mg/l以下
18	マンガン及びその化合物	マンガンの量に関して、0.01 mg/l以下
19	遊離炭酸	20 mg/l以下
20	1,1,1-トリクロロエタン	0.3 mg/l以下
21	メチル-t-ブチルエーテル（MTBE）	0.02 mg/l以下
22	有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	3 mg/l以下
23	臭気強度（TON）	3以下
24	蒸発残留物	30 mg/l以上 200 mg/l以下
25	濁度	1度以下
26	pH値	7.5程度
27	腐食性（ランゲリア指数）	-1程度以上とし、極力0に近づける
28	従属栄養細菌	2000個/ml以下（暫定）
29	1,1-ジクロロエチレン	0.1 mg/l以下
30	アルミニウム及びその化合物	アルミニウムの量に関して、0.1 mg/l以下

5. 臨時の水質検査

次のような水質変化等が発生した場合は、直ちに水質検査を実施し、水質異常が終息して安全が確認されるまで行います。

- (1) 水源に著しく変化が見られたとき。
- (2) 水源に異常があったとき。
- (3) 水源付近、給水区域及びその周辺等において消化器系感染症が流行しているとき。
- (4) 浄水処理工程に異常があったとき。
- (5) 配水管の大規模な工事その他水道施設が著しく汚染されたおそれがあるとき。
- (6) その他特に必要があると認められるとき。

6. 水質検査の方法及び委託内容

- (1) 検査方法については、「水質基準に関する省令の規定に基づき環境大臣が定める方法」に基づいて検査を行うものとする。
- (2) 1日1回行う検査項目
建設水道課の職員が行います。
 1. 残留塩素の測定は残留塩素計で行います。
 2. 色、濁りは外観目視で行います。
- (3) 定期検査
国土交通大臣及び環境大臣の登録を受けた者に委託して行います。

7. 試料の採取及び運搬方法

- (1) 試料の採取については建設水道課の職員が行いますが、委託先の受注者に採水依頼する場合があるので、採水時には受注者の法令で定められた検査員が採水を行うこととする。
- (2) 運搬方法については採水終了後に試料をクーラーボックスに入れ保冷し、破損防止の措置を施し受注者が社用車で検査施設まで運搬することとする。

8. 委託した検査の実施状況の確認方法

水質検査の結果の根拠となる資料を求め、適正に検査が実施されているかの確認を行います。

9. 水質検査計画及び検査結果の公表

水質検査計画は毎事業年度の開始前に作成し、平取町ホームページで公表いたしますので、ご意見をお寄せください。

ご意見は今後の水質検査計画策定に当たり参考とさせていただきます。

尚、水質検査結果についても、平取町ホームページ及び建設水道課窓口で公表いたしますし、検査結果を基に必要なに応じて検査計画の見直しを随時行っていきます。

10. その他

- (1) 常に安全で満足していただける水道水を供給いたします。
- (2) 水道水質の信頼性確保につとめます。
- (3) 水道事故等が発生したときは、保健所・検査機関と連携し早期の復旧につとめます。
- (4) 住民の疑問点・不明点につきましては早急に対応いたします。

お問い合わせ先 〒055-0192
沙流郡平取町本町28番地
平取町役場 建設水道課水道施設管理係
TEL 01457-2-2226 (直通)